

旧手宮線散策路：小樽の鉄道遺産をたどって

小樽の歴史ある銀行・商業地区を通って旧手宮鉄道施設までつながる北海道初の鉄道線路の一区画に続く 1.6 キロの散策路があります。廃線となった手宮線の線路や遮断機が保存されており、かつては家々に手が届く範囲で電車が轟音を響かせる賑やかな貿易拠点として栄えた街の過去を垣間見ることができます。1882 年、幌内（現在の三笠市）の新しい炭鉱と小樽港手宮の石炭積載栈橋を結ぶ幌内鉄道の第 1 期区間として手宮線が開業しました。

手宮線は手宮鉄道施設からのちに南小樽駅と改名される小樽駅まで走っていました。蒸気機関車が幌内鉄道で本州に出荷する石炭を運び、小樽と北海道中部の目的地間を商品や乗客を乗せて走りました。

旅客列車は手宮・札幌間 1 日 1 往復し、3 時間かかりました。北海道の鉄道網の発達に伴い札幌や函館からの客車はさらに内陸部にある新小樽駅を通過するようになりました。地元の乗客向けの一部のサービスと貨物・石炭の輸送は引き続き手宮線を使いました。最終的に手宮線の旅客サービスは 1962 年に廃止されましたが、貨物サービスは 1985 年まで続けられました。色内銀行街近くの旅客駅プラットフォームは小樽の発展に欠かせない手宮線の役割を思い出させます。